

## おじいちゃんとの通学路

工藤 月椛

「つぐ、みんなもう来るよ」

毎朝、おじいちゃんの声で、私は家を出ていきます。

私は小学校入学してから毎日、通学路をおじいちゃんと歩いて学校に登校しています。

おじいちゃんは見守り隊という登校ボランティアとして活動していて、私たちの通学班と歩いてくれます。雨の日も、風の日も、雪の日も暑い夏の日も一緒に歩いてくれます。

入学した時から毎日一緒に歩いてくれていて、最初は重たいランドセルを背負いながらあるくだけでも大変でしたが、おじいちゃんがそのほかの荷物を持ってくれたりしてくれて心強かったです。

「明日は雨だからかさがいるね。」

「明日が風がつよいみたいだよ。」

と二人で明日の天気を見ながら次の日の用意をします。

「今日はずで雨がふるからかさを持って行ったほうがいいよ。」

と、声をかけてくれたり

「雨が強いから長靴をはいたほうがいいよ。」

と教えてくれます。

おじいちゃんは毎日、畑仕事や私たちが食べるお米作りもしているで、忙しいなかで私たちの見守りもしてくれています。

雨の日や、風の日も

「学校に行きたくないな」

なんて日もあります。おじいちゃんが声をかけてくれるので、よしおじいちゃんもいくから私もがんばらなくちゃと思いついて二人で家を出発します。

家に帰ってきてから、夕飯やお風呂に入っているときに

「今日はあの道に大きなハチがいたよね」

「道がでこぼこしてたよね」

と話しながらすごすことがとても楽しみです。

私は、小学校4年生なのであと2年おじいちゃんと一緒に小学校までの通学路をかよえます。おじいちゃんがいてくれるので、本当に心強くて安心して通学できます。

私は、いつまでもおじいちゃんとの通学路を歩きたいです。

だからおじいちゃんも、元気で一緒に歩いて登校の見守りをしてください。

おじいちゃん、いつもありがとう。